

# 普代村人口增加策

追手門学院大学

地域創造学部地域創造学科

黄賀 章太

# これまで出してきた案

- 観光地をアピール？
  - 特産品を売り出す？
  - イベントで発信？
- …いろいろなアピールポイントがある中で住むか住まないかを決めるポイントは？
- 「他の地域でなく、ここに住みたい」と思える魅力を感じるかどうか。

# 現在の普代。

村から出て行ってしまふ人は止めることができない。

村から出て行ってる人がいる一方で、他のところから村に転居して来る人もいる。

住みたいと思える人が住み、村を大切にしてくれることが村の魅力になる。

→住みやすさとは何か？住みやすいと思う情報とは？

実際に住んでる人や、住んでた経験のある人から情報を聞くのが大事なのではないだろうか。

今回の自分の案

# 高校開設

# 住みやすさを他に知ってもらう方法

- ・実際に住んでる人、過去に住んでいた人からの情報を知る。

転居して来る人は20代30代の人が多く、子育てに関連する人も存在。

現在、普代には高校がない。高校は比較的遠い高校に行き、大学や専門学校進学時となると通うには非常に困難な場所にある。

# とはいっても・・・

- 普通の高校と同じような高校では別の高校に行くこともあるし、他から来る人も多いとは限らない。
- もともと普代に高校はない。  
→別に高校設置する必要がなかったのかもしれない

そのような状況の中、どのような高校を設置するのか？

# どんな学校にするか？

- 高校名には必ず「普代」を入れる。
- 従来の学区の人は一般高校と同様の形で受験。  
他の学校との違い・・・他学区、別の県の人でも受験可能にする

日本全国からの受験を可能にする

# 寮を通じた教育をしている学校① 私立編

- 私立高校だとその高校が何かで特化していれば、他県からも留学生が来る。

(例、高校野球。他の地域からの野球留学が多く入学する高校も存在)

青森県八戸市だと八戸学院光星高等学校に大阪や兵庫からの野球留学者が多い。八戸市はこの学校が光星学院から八戸学院光星高等学校になった影響で野球に関係する人からの知名度は非常に上がった。

校名に地名が入ってる高校が何らかの実績を残して知名度あげると、その地域の知名度も上がる。



## 寮を通じた教育をしている学校② 公立編

島根県にある隠岐島前高校。

県立ながらも学区外から受験し、離島留学が可能な高校になっている。

主な方針は離島留学による寮生活を中心にした。カリキュラム。

この高校は進路は幅広く分布。国公立大学に行く人や私大に行く人もいれば、短大や専門学校、卒業と同時に就職の人も存在。

多岐にわたる進路のもと、寮生活による集団生活を実施。

# そこで・・・普代村も・・・

- 村の案にある「**教育による村づくり**」を実行。  
子どもたちへの教育を通じて、村づくりをする。  
その方針のもとに...高校を作る！

外から普代に留学してきた生徒が、実際に普代出身のメンバーとどうかかわっていくか。

普代独自の生活ができる場、普代の名前が他に知られるようになる高校をつくっていく。

# どのような高校にしていくか

普代としての高校を既に在住している人で考えていき、3年間、普代で過ごした人が外で普代を発信できるような学校にできる高校にしていく。

学校側がサポートしていくこと(教育面)

一人ひとりのニーズにあった教育。

必ずしも、偏差値を高める教育をして、偏差値の高い大学に行かせることを優先した教育をするわけではない。

学校側がサポートしていくこと(生活面)

現在、普代中学生徒が取り組んでいる保育園訪問、学年全員で行った鶉鳥神楽でのイベントに新設高の生徒も参加。私生活面でも住民が集まってイベントできる場所でイベントを行い、寮生徒も参加してもらおう。など

# 私が来て感じた普代の子供の特色(村外関係)

- 久慈地区の学校は交流会を積極的に企画していて、普代村の学校の方々も積極的に参加している。

(例・私が来た時は久慈地区陸上競技会というイベントがあり、久慈地区の中学校の全校生徒同士で交流していた。)

他の地域と比べ、自分たちと違う環境の人と定期的に関わる機会が多い村で育った人が多いのがこの村にある特色⇒寮制度のある高校を設置した場合、外から来た高校生が生活しやすい環境がある。

- 久慈地区交流会の市町村で唯一高校がないのも普代村。高校を一から開設するという点だけに焦点を置くならば、普代がいちばん作りやすい状態ではある。

# 私が来て感じた普代の子どもの特色(村内関係)

- 同じメンバーでずっと過ごしてるイメージが強い。
- 生徒たちが、学校以外の村内活動に参加する事も多く、保育園の教職員と顔見知りの生徒も。

村の人と関わる場が多く、この点でも普代高校があった場合は他の地域の高校にはない魅力がある。

こうした取り組みは他の地域から子どもを集めるときに相手側からすれば自分の地元の学校にはない魅力となりえる

# 問題点

野球留学が盛んな高校も、隠岐島前高校も、留学生向けの教育をする前からあった高校であり、普代は別に高校があったわけでもない。

- その目的を実現することによるメリットがどこまであるか。理想は普代高校でも外の人が寮生活できる高校。
- 最初からなかったことを考えると、何か工夫して開設しないとうまくはいかない。

# まとめ

- 普代に高校を設置し、村外出身の高校生が寮生活を3年間送り、将来永住したり、自分が過ごした普代の良さを普代以外の場所で話すことができるのが理想。
- ただし、もともと高校がなかった場所に高校を設置し、どこまで人が住むかわからない企画をするのは、負担が大きい。
- 教育による村づくりという目標のもとで、村ができる範囲はどこまでか、村がどこまで工夫したり力を入れたりできるか、仮に高校を設置したとしても、外から来る生徒がどうすれば普代にずっと住みたいと思ってもらえるかが課題だと思われる。